

【地域おこし協力隊とは？】

地域おこし協力隊とは、総務省の取り組みの1つで、課題を抱える地方自治体に人材を受け入れる制度です。

主な役割としては、任期中（概ね1年～3年）に地域に移住し、実際にそこで暮らしながら、さまざまな地域への協力活動を行うこととされています。

東京都の離島でもこれまで大島、利島、神津島、三宅島、八丈島などで募集されています。神津島には地域おこし協力隊から移住して、村会議員になった方もいます。

新島村では観光案内窓口を立ち上げるにあたり、地域おこし協力隊を令和4年12月28日から令和5年2月13日まで募集しました。たくさんの応募の中から、書類選考、オンライン面接、新島での面接を経て、3名の地域おこし協力隊が新島村の仲間になりました。

村は、地域おこし協力隊募集

要項の中で「お客様のご視線」を持ちながら村職員と協力し、観光案内の業務をつくってもらいたい。さらには、来島者が減りがちな冬場に向けて、観光だけではなく、島の人々との出会いや島の文化を体験したり、ワークショップやリモートワークでも快適に過ごしたりできるようにプランなど、島の新しい過ごし方の企画提案をしてもらいたい。」としており、新島のこれらの観光業務に大きな期待を寄せています。

4月から実際の業務が開始となった観光案内所では、これまでの窓口対応やキャンプ場の受付業務はもちろん、SNSでは観光情報の発信や、キャンプ場の空き状況、新島の施設見学レポなども掲載さ



◀QRコードを読みこむと、新島観光案内所のツイッターを見ることができます。

れており、便利かつ新島を深掘りできるので、観光客のみならず村民にもフォロワーが増えています。インスタグラムのフォロワー数は約1500人、ツイッターのフォロワー数は約4000人です。（7月17日現在）

村にとっては人材育成の場となり、協力隊にとっては業務を通じて村への貢献とスキルアップが図れる事業となっております。

島民の皆さまにおかれましては、協力隊の方々が自分の特性を活かして島の課題解決に力を発揮できるように、暖かい目で見守っていただきたくお願い申し上げます。

小久保利佳

議会も新しいメンバーになって2回目の定例会。一般質問に立った議員も、各々の観点から質問をしている。住みよい島づくりのために、村民の声をよく聞いて、村民と共に良くしていくことが我々議員の仕事だと思う。

スピーカースで取り上げられている、地域おこし協力隊の方々は、慣れない島生活を送りながら、新島のために船客待合所内の観光案内所でお仕事をされている。道で会った時には、気軽に声をかけてあげてほしい。島外から来ている人たちが、新島のために頑張ってくれているのだから、もともと島の人間である我々はもう少し考えるべきではないだろうか？

青沼 弘